



| | | | |
|------------------|-------------------|--|---------------|
| 目次 | 説教 | めぐみを知らせる声 | …… 八田 牧人 …… 1 |
| | 教会の課題 | 座談会総括3/6 テーマⅢ 現代日本において宣教する場合、 教理的に、どこに強調をおくべきか | …… 大石 周平 …… 2 |
| | 旧約聖書に聴く | 「原初史が語る人間と世界」(3) 「神のかたち」 | …… 高松 牧人 …… 3 |
| | 憲法改正25年 (第2、3、4条) | 信仰告白の教会形成的展開としての憲法 | …… 三瓶 長寿 …… 4 |
| | 教会、この地とともに⑦ | 広島長東教会 | …… 井上 豊 …… 5 |
| | コロナの現場③ | 被爆都市広島にある教会として | …… 川野 美寧 …… 6 |
| | コロナ禍の中で① | 高齢者福祉事業 | …… 芳賀 繁浩 …… 6 |
| | こいのにあ | 変わる世界に変わらない言葉を | …… 富永 憲司 …… 7 |
| | | コロナ禍の中会会議 | …… 北村 一幸 …… 7 |
| | | コロナ禍を耐え、工夫で希望を | …… 小川 芙右 …… 8 |
| 第26回 青年のつどいに参加して | | …… 蒲原 昭子 …… 8 | |
| | 稚内萩見伝道所牧師就職式 | …… 蒲原 昭子 …… 8 | |



めぐみを知らせる声

傷ついた葦を折ることなく／暗くなってゆく灯心を消すことなく／裁きを導き出して、確かなものとする。(イザヤ書42章3節)

はつ た まき と
八 田 牧 人

昨年以来のコロナ禍の中で、わたしたちの社会はより一層の速さや強さ、成果ある対策を渴望して迷走しています。そして、やっぱりチカラは正義なんだという思いが表面化して来ています。

わたしたちもその風潮に流されそうです。わたしたちが小さい頃から教え込まれて来たことが原因なのです。欠点は矯正して少なくする、足りない点は努力して満たす、さらに努力して高みを目指す、これらは全部、社会的な価値もしくは自分の価値観に従ってチカラを発揮することを善としています。

その環境は、自分の努力が評価されない状況や制度、対立する考えや人は排除しなければならないという思いを育てます。相互監視の自粛警察、同調圧力、罰則による強要、果ては格差と分断が前提の人命の価値づけ、と排除の手段ばかりが巧妙化・効率化しています。反対を表明するためには、より大きな努力と声と目に見える成果が要ると思い、だから自分には無理だ、といういつも通り何もしないための言い訳に陥りがちです。そうならないように、イザヤ書42章1～4節に聴きたいと思います。

主なる神は僕について、支える者、選ばれた者、喜び迎える者と呼んでいます。神と共に居られることを信じる者のことです。そして、彼は叫ばない、呼ばわらない、響かせないとも言われます。人前で、多数を獲得するために自分の価値を喧伝するために神のことばを利用しないという意味でしょう。語るなどか、無暗に声を挙げるなど言っているのではありません。神の前に誰が自己証明する必要があるのでしょうか。こんなにも努力していると認めさせる相手は一体誰でしょうか。それは人間自身、わたしたち自身の思いではないでしょうか。

主の僕は沈黙している訳でもなく、何もしないの

でもありません。神のことばに従って、表すべきことを示しながら生きています。折れた葦を役に立たないと間引かずに整えます。灯心を古くなって役立たないからと捨てないで整えます。つまり無駄と思って排除することが改良ではないと示しているのです。

単に感傷的でもケチなのでもなく、人間の価値観による判断と主なる神の秩序とは違うことを示す生き方は、有用性を強調する人間たちの判断によって生まれる排除の論理に対抗するものなのです。人が生き残れなくなることへの明確な反論です。

主の僕が示す主なる神の正義は、全てのものを喜びのうちに生かします。この正義のうちにわたしたちも含まれると言われています。預言者イザヤの時代も、主イエスが来られた時代も、わたしたちの時代も、チカラが正義であると声高に主張される時代です。その中で、隠れた諦観や教会内での非難合戦が広がることのないように、主なる神のことばは、わたしたちを生きること根付かせ、活かされる喜びを拡げて行くのです。

さらに、全ての人にとって、主なる神の正義は待ち望まれています。自分だけが傷つき果てると思っていたわたしたちも、自分への哀れみを捨てて主なる神に従うとき、活かされ、遣わされる者とされるのです。

鳥々という言葉(4節)で表される全世界に神のことばを伝えるため必要なのは、克己努力や修辞学などではありません。わたしたちが、自分自身の心の中に潜む排除の思想、自分の腹を神とする罪から解放されて、信じて生きる日々立ち帰ることなのです。(北海道中会教師)